

アート・オブ・
ベースボール



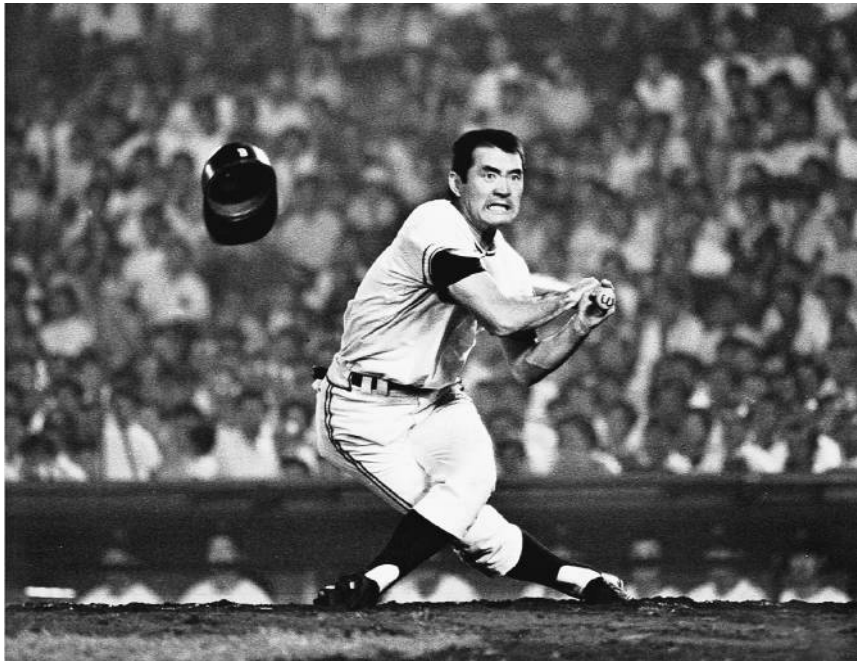
スポーツ文化評論家 玉木 正之

(10)

この一枚の写真が雑誌『NUM
BER』創刊7号の表紙を飾った
ときは、ぶっ魂消るほど驚いた。

は十分に知っているつもりでい

産経新聞社提供



た。小学生の時から白黒テレビで
見続け、大学生として上京した後
は球場に何度も通った。だからゴ
ロの打球をサイドステップで鮮や
かに処理して美しく指先まで伸ば
して一塁へ投げる姿も、クロスブ
レイでなくても激しく土煙を巻き
あげてスライディングする姿も知
っていた。が、これほどダイナミ
ックな空振りには知らなかった。

スポーツライターの仕事を始め
て長嶋氏にインタビューする機会
を得たとき、私は最初に三振につ
いて、鏡の前で帽子の飛ばし方を
練習されたのは本当ですか？ と
訊いた。すると「どうせ空振りす
るなら少しでもいい空振りを観客
の皆さんにお見せしようと思っ
ました」との答えが返ってきた。

ちなみにこの見事な空振り写真
は新聞社ではポツ。試合の勝敗に
は無関係の空振りだったのだ。

しかし、この姿こそ野球という
素晴らしい球戯の見事な瞬間とい
うべきだろう。

「野球には勝つことよりも大事
なものがある」（フィリップ・ロ
ス『素晴らしいアメリカ野球』よ
り）

それは、おそらく「美」なのだ。

野球とは「美」の瞬間を味わうの
が目的の不思議なスポーツなの
だ。（1968年）

遠藤忠「長嶋茂雄ヘルメット飛ばす」